

令和4年度 仰木小学校学校評価書			『恵まれた自然や歴史と伝統のある郷土仰木を誇りとし、共に考え、鍛え合う、心豊かな子どもの育成』											
評価基準 A:よい成果が出ている B:成果が見られる C:努力を要する D:一層の努力を要する課題がある														
大項目	中項目	小項目 <評価の観点>	令和4年度中間自己評価	令和4年度最終自己評価				学校関係者評価		学校改善に向けて				
学校評価	学校評価(自己評価・学校関係者評価)	学校評価結果は保護者・地域に公表されている。	B	B	B	B	・HPを通じて広く情報を発信している。結果については、職員会議等で全教職員が共有し、教育活動に生かすよう努めている。 ・会議等の場で、結果をグラフ化して見ることができた。 ・教員間での共通理解が図れている。				B	次年度からは学校からの文書もWEBでの発信となっていく。HPの活用も効果的に行いながら、保護者・地域に啓発を図っていきたい。		
		学校評価結果は、日々の教育活動に生かされている。	B											
あかるい子 あふれる学校	主体的・対話的で深い学び	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践に努めている。	B	B	B	B	・仲間の良さを認めて、進んで学び考えを深める子どもの育成を主題に、計画的に公開授業、授業研究会を持ち、研修に努めている。 ・校内研究を中心に、主体的、対話的で深い学びの実践に向けて授業改善に取り組んでいる。 ・校内研で授業研究をするだけでなく、毎学期、教師対象に授業に対して振り返るアンケートを実施した。				B	少人数なので、中学校に進学した時に呑み込まれてしまう心配がある。自分の考え、思いが出来る子供に育ててほしい。基礎学力をしっかりとつけてほしい。 図書にふれあう場(読み聞かせ、紙芝居等)があるとよい。 コロナ禍で群読が中止になっているのが残念である。発表会前にはせりふを暗記し、練習を通して物語を深掘りでき、理解する力がついていたので、再開を望む。		
		協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善をしている。	B											
		主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の場を設けている。	B											
	指導改善(組織的・計画的)	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善を行っている。	B	B	B	B	・学力向上研修会を全体で行い、学力向上の具体的な手立てを検討し、実践に取り組んでいる。 ・日々の基礎学力の徹底に向けてはどの学級も力を入れて取り組めている。しかし、その基礎学力を活用して応用問題を読み解けるような力につながっているかというと課題が残る。全般として、どんな力からつけていくのか、検討が必要かもしれない。 ・コロナ禍を防ぐため行事などを見直すことができる機会とし、精選することで働き方改革、教育活動の質の改善を図りたい。 ・働き方改革に関わっては、教師の意識改革が必要である。							
		教職員の指導力及び組織的な教育力の向上を図っている。	B											
		働き方改革に取り組むと共に教育活動の質の改善を図っている。	B											
	読書活動	日々の生活の中で、読書することを継続的に奨励している。	B	B	B	B	・朝の読書タイム、読み聞かせ、全校読書週間等の取組を今後も継続したい。図書ボランティアさんを効果的に活用できるように、図書室の利用促進の手立てを考えたい。 ・読書週間が定着している児童については、読む力の積み上げができるまでいる。読書活動を苦手としている児童にどのような手立てをうつしていくか、検討したい。児童の読解力・語彙力の向上のためにも何らかの対策を考える必要がある。 ・全校で音読大会や、切磋琢磨する場があつてもよいのではないかと思う。 ・図書館を利用する児童は少ない。							
		音読、群読、暗唱等発表の場を積極的に設けている。	B											
つながりあふれる学校	交流活動	児童会活動や日々の清掃活動を通して、たてわり活動の充実に努め、上学年と下学年の良い関係づくりに努めている。	B	A	A	B	・たてわり活動は仰木小の特色の1つであり、今後も人間関係づくりの基礎を学ぶ機会としていきたい。 ・たてわり活動が定着している、たてわりそとにについてもみんなで協力して取り組むことができている。	A	小規模校の良さを活かし、たてわり活動が充実している。今後も公開授業は進めてほしい。地域の人・物・場所については今後も大いに使うべきである。学校の中で伝統文化である仰木太鼓・仰木小唄にふれあう機会があるのはよいことであり、継続していくことの大切さを感じた。今後も仰木太鼓や仰木小唄の体験は続けていきたい。また、地域とのつながりも一層大切にしている。 今年度は150周年記念事業を地域の方々の御協力のもと、滞りなく実施することができた。その中で改めて伝統文化に触れたことや継承していくことの大切さを感じた。今後も仰木太鼓や仰木小唄の体験は続けていきたい。 小規模校ならではのたてわり活動をさらに充実させていきたいと考える。					
	保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の授業交流に努めている。	B	B	B	B	・直接の交流が難しい中で、ICTを活用したり、学級通信やビデオを交換したり、可能な形を工夫して交流できた。近隣校園の授業公開や職員研修会に参加し、研修を深めることができた。							
		校種間の授業公開や合同研修会を行っている。	B				・コロナ禍で校種間交流の実施は難しいが、毎年スタートカリキュラムを作成し保幼小のスムーズな接続ができる。							
		保幼小の里幼稚園への出前授業を行なうことができた。	B				・仰木の里幼稚園の先生に小学校の公開授業を見ていたく機会を持つことができた。							
	家庭・地域との連携	保護者の子育ての悩みを聞く機会を設定すると共に、保護者の子育てに対する積極的な支援を行っている。	B	B	B	B	・年間を通じて、地域の方々や各専門家の方々を招き、学習の支援をしていただいている。 地域の方がゲストティーチャーを快く引き受けくださって、授業づくりを助けていただくことができている。 ・避難訓練のあり方などを全体で振り返り、改善していきたい。							
		保護者・地域との交流や情報発信、参観・懇談会、研修会などを実施している。	B				・今年は150周年の取り組みとして、仰木太鼓の先生方や、仰木小唄の先生方に教えていただくなど、ら積極的に地域の魅力を活用することができた。							
		地域の人にゲストティーチャーとして授業に参画してもらっている。	A				・折に触れて万が一を想定した行動であつたり、感染症対策について確認したりしている。							
		防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくりを行っている。	B											
あたたかい子 あたたかい学校	道徳教育	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を実施している。	B	B	B	B	・3年ぶりに全校道徳参観を実施できた。 ・いじめは絶対に許さないという強い意志で教育活動を実践できていると思う。事案が起こった時にも、相談し、連携をとって対応できている。 ・児童会によるシンボルマークと「仰木っ子憲法」の啓発を行っている。毎月の挨拶運動、縁割り遊びや交流活動を実施した。	AB	仰木っ子憲法やスマイルフラワー等は、これからも大切に次世代へ引き継いでほしい。 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力は、長いスパンで子供たちの心におとしている必要があります。少ない大人の中ではあるが、子供たち一人一人の動きをしっかりと見たり、個に応じた指導・支援をきめ細やかに行うことを継続したい。 今年度は3年ぶりに道徳参観を実施することができた。その意味や内容等の啓発については課題が残る。保護者や地域に積極的に発信していただきたい。 生徒指導に関わっては、毎週の子供の様子の交流や組織的な対応を継続して行いたい。特に定期対応をしっかりと行えるよう、教職員間で共通理解を図りたい。					
		道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流を行っている。	B											
		保護者等への道徳科の授業公開を行っている。	A											
	特別支援教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し活用している。	B	A	A	A	・個別の支援や配慮の必要な児童について、ケース会議を開き、情報共有と今後の指導方針について共通理解することができた。 ・ケース会議を行い、チームで考えることができている。 ・個別の指導計画立て、振り返り立て、直し直し、一人一人の子どもに合わせて計画し、活用している。							
		組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されている。	B				・個別の指導計画は、1学期・2学期に保護者への開示懇談実施。日々の学校生活や支援の方法について、保護者との共通理解を図っている。							
		関係機関と連携した相談体制の充実を図っている。	B											
	生徒指導	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見に努めると共に、日常的な予防に取り組んでいる。	B	B	A	A	・日頃から全教職員で子どもたちを見て、何かあったときの早期発見、早期の組織的対応に努めている。 ・生徒指導部会を月末に行い、他学年のことをしっかりと情報共有できるようにした。							
		生徒指導体制を確立し、事案に対して誠意を持って迅速かつ組織的に対応している。	B				・いじめ事案と思われるものは、すぐに相談できている。また管理職の対応も早く、ちょっとした違和感に対する相談から始まり、対策委員会やケース会議など、タイムリーに時間をとり、素早く対応できている。問題をそのままにせず、小さな違和感の内から問題の芽を摘む対応がでている。							
		教育相談体制を確立し、子どもの悩みに対して組織的に対応している。	B				・日々の子ども達の様子について、家庭との連携、相談を心がけている。							
		家庭・地域・関係機関との連携を図り指導している。	B				・週に一回子供たちの様子を交流し、共通理解を図っている。							
	体験活動	各種体験活動の実施については、子どもの実態等を考慮し、計画的に行っている。	B	A	B	B	・コロナ禍での可能な体験活動の方法が定着してきた。体験で得た学びをどうアウトプットしていくか検討していきたい。 ・体験学習が多く、子どもたちの興味関心に大きくなっている。また、体験学習があるゆえに、そこへ向かって進めていかなければいけない、と教師の意識も高めることができる。							
		体験活動後には、体験だけに終わらず、学習活動として学ぶ力の向上に努めている。	B				・体験活動…1・2年校外学習、5年田んぼ学習、5年フローティングスクール、4年天神川学習、志賀お話の会さんによる読み聞かせ5・6年お琴学習等、コロナ禍ではあるが感染症対策を講じ、できる範囲で実施できるように努めている。							
あきらめない子 あきらめない学校	安全指導	それぞれの立場で、安全管理に向けた指導を適切に行っている。	B	B	B	B	・教職員が高い危機管理意識を持つことで、子どもたちへの指導につながってきている。 ・登下校については、学区外児童の割合の増加、児童数減少による見守り保護者数の減少している状況であり、今後さらに地域の方々との連携が大切になってくるだろう。				AB	地域の見守りの絶対数が少なくなっているが、継続して見守り姿勢を大切にしたい。 アミーゴタイムや体力向上に向けての取組は継続したい。 登下校の見守りについては、児童数の減少、学区外からの児童の増加等により、より難しくなってくることが予想される。地域・保護者との連携を密にするこを心がけ、方法等を検討していく必要がある。 当たり前のことが当たり前にできるよう、引き続き組織的に指導を継続していきたい。 小規模校の特性を活かしながら、笑顔あふれる仰木っ子を育てていきたい。		
		保護者や地域の方々と連携し、子どもの登下校の安全指導に努めている。	A				・毎週水曜日、教師の引率による下校指導、毎月の朝の登校指導を実施している。							
	健康・体力づくり	たくましい心と体を育てることができる魅力ある授業となるよう工夫改善を行っている。	B	B	A	B	・体育や保健の授業だけでなく、食育指導や衛生管理など子どもの健康増進につながる系統的な取組を進めたい。 ・うちトレ、アミーゴタイムなど、子どもたちに定着している。子どもたちも楽しめている。							
		日々の生活												